



香港公共交通の万能カード「オクトパス」

「オクトパス」カードとは

香港の公共交通機関では、ICチップを内蔵したチャージ式カード「オクトパス」がよく使われて



写真①：「オクトパス」

います。日本でもJR東日本の「スイカ」や私鉄の「パスモ」などチャージ式カードが利用されていますが、香港の「オクトパス」は、日本に先駆け（「スイカ」は2001年導入）、1997年に導入された、チャージ式カードのパイオニアです。「オクトパス」は漢字では「八達通」、英語では「Octopus」と表され、タコの足のように様々な方面に伸びる（用途に使える）

ことを意味しているようです。

この「オクトパス」は、香港市内の地下鉄やバス、ライトレール（路面電車）、フェリーなどほとんどの公共交通機関への乗車に使用でき、地下鉄の場合、「オクトパス」を使うと片道乗車券より1割程度運賃が割引になる、二重運賃になっています。地下鉄の駅で観察してみると、香港の人はほとんどが割安な「オクトパス」を使っており、券売機で片道乗車券を購入するのは観光客が多いようです。

日本では、2014年4月の消費税引き上げにより、チャージ式カードと片道乗車券との二重運賃となり、JRの場合、チャージ式カードの方が割安な区間と片道乗車券の方が割安な区間が生じ、利用者の混乱を招いています。香港では常に「オクトパス」の方が割安であり、片道乗車券の廃棄物を発生させずに環境にやさしい分、割安にするという考え方が徹底しているといえます。



写真②：「オクトパス」で改札を出る乗客



写真③：券売機で片道乗車券を購入するのは旅行客が多い

表1 地下鉄 Sheung Wan 駅からの運賃比較

	Central	Wan Chai	Fortress Hill	Tai Koo	Tsim Sha Tsui	Yau Ma Tei	Lai Chi Kok
片道乗車券 (HK\$)	4.5	5.0	6.5	8.0	9.0	12.0	13.0
オクトパス (HK\$)	4.0	4.9	6.0	7.4	8.7	10.7	12.7
オクトパスの割引率(%)	11.1	2.0	7.7	7.5	3.3	10.8	2.3



写真④⑤: ベーカリーショップにてオクトパスで支払いしているお客

「オクトパス」の電子マネー機能

「オクトパス」は公共交通機関の利用だけでなく、コンビニ（セブンイレブンやサークルK）、ファーストフード店（マクドナルド、スターバックス、ベーカリーショップなど）、スーパー、自動販売機など多くの店舗で使用可能な電子マネー機能を備えています。カードリーダーにタッチするだけで支払いが済むので、片手に荷物を持ったままでも支払いができる利便性があります。

日本の「スイカ」や「パスモ」などのチャージ式カードも、乗車券としての用途以外にコンビニや駅構内の店、タクシーなどでも使用できますが、香港の「オクトパス」は使用できる店舗の範囲が広く、お財布代わりとして香港市民には欠かせないものとなっています。こうしたことから、人口700万人の香港でオクトパスの流通枚数はなんと2,400万枚にのぼり、単純計算で1人3枚は持っていること



写真⑥: オクトパスは携帯電話同様に常に帯同する存在



写真⑦: 公共駐車場の案内板。「OCTOPUS ONLY」の表示あり。



写真⑧: 公共駐車場の料金精算機



写真⑨: 道路脇のパーキングメーター

になります。写真⑥の学生のように、スマートフォンケースに「オクトパス」を入れ、常に携帯する存在となっています。

香港の特徴的な電子マネー機能として、写真⑦～⑨にあるように公共駐車場や道路脇のパーキングメーターの料金精算は「オクトパス」しか使えない点があげられます。クルマユーザーにとっても「オクトパス」は欠かせないのでできないものとなっています。

セキュリティカードとしての「オクトパス」

香港に駐在している日本人に話を伺ったところ、その人の会社のオフィスやマンションに入る際のセキュリティチェックにも「オクトパス」が使われているそうです。また学校にもオクトパスリーダーが設置してあり、生徒がリーダーに「オクトパス」をかざすことで出席確認を行っているようです。このように、「オクトパス」は香港市民にとって日常生活の一部となっています。オクトパスカード社の会社スローガンは「Making Everyday Life Easier（日々の生活をより便利に）」であり、「オクトパス」は万能カードの地位を築いていると言えます。

観光客の利便性向上策としての IC カード活用

「オクトパス」は香港市民のみならず、観光客も利用可能です。デポジット（保証金）として50HK \$（約700円）が必要ですが、香港出国の際にカードを返却すればデポジットとチャージ金の残高は返金されます。乗り物に乗るにせよ、街中で買い物をするにせよ、現金をあまり持ち歩かなくても用が足り、しかもコインがたまる煩わしさから解放されるのは、観光客にとってもうれしいことです。

日本でも「スイカ」や「パスモ」などチャージ式カードが利用され、公共交通のみならず、一部の店舗で電子マネーとして使えるようになってきました。しかし、日本に来る外国人観光客がこれらのカードを持っていれば日常の用が足りるかといえば、実情はだいぶ遠いと言わざるを得ません。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本政府は外国人観光客を増やすための環境整備を進めようとしています。ユーザー目線でチャージ式カードのあり方について考えてみることも必要ではないでしょうか。